



国際的ソフトウェアへの道

■ まつもと ゆきひろ

日本はものづくりが得意と言われていて、自動車、家電、電子部品などの領域で世界を席卷してきた。しかし、近年、家電においても電子部品においても他国との競争に勝利しているとは言いがたい状況にある。また、ソフトウェアやサービスという新たな領域においては、日本の存在感はかなり薄い。

ソフトはなにが違う？

ソフトウェアやサービスの開発は、大規模な投資は不要で、漸近的な開発が可能であるため、日本人が得意と言われる組織的な協調性はそれほど重視されない。むしろ才能あふれる個人プレイとオープンソースのような組織を越えたコミュニティが重視される。この非公式で緩い繋がりを活用することが日本の組織は得意ではないようだ。

Ruby の場合

Ruby の場合を考えると、これは事業として開発したものでもなければ、協調作業によって始められたものでもない。いわゆる日本的開発とは対極の位置にある。1993 年、職業プログラマであった筆者は、バブル崩壊に伴い、いわゆる窓際のような業務に割り当てられた。人によっては待遇に不満を感じるころかもしれないが、筆者はこの境遇をかねてより考えていたプログラミング言語開発のための絶好の機会だと考えた。プログラミング言語を設計することも楽しいし、実装することも楽しいし、また完成した言語を使うことも楽しいという一石三鳥のチャンスでもあった。Ruby の開発は完全な個人プロジェクトであったため、自らの発想に従いのびのびと開発できた。これが結果的に Ruby を「世界的なプログラミン

■ まつもと ゆきひろ
Ruby アソシエーション

プログラミング言語 Ruby 開発者。
ネットワーク応用通信研究所, 楽天
技術研究所フェロー, Ruby アソシ
エーション理事長, 米 Heroku 社
Chief Architect, Ruby など兼務。



グ言語」とするための重要な要素になったと考えている。

Ruby 開発者の憂鬱

さて, Ruby は世界中で利用され, 高く評価されている。その開発者である筆者も, 日本イノベータ大賞をはじめとする数々の表彰を受け, 政府の IT 総合戦略本部の本部員に就任したり, さらには島根県松江市から名誉市民の認定を受けるなど社会的評価も高い。

しかし, このような高い評価を受ける一方で不満があるのも事実である。それは日本にいる数多くのソフトウェア開発者の中で筆者 1 人に評価が集中するのは不健全であると考える点と, Ruby 開発開始以来 20 年以上が経つにもかかわらず, Ruby に続くような世界的評価を受けるオープンソース・ソフトウェアあるいはプログラミング言語が日本 (人) から登場していない点である。

「次の Ruby」のために

日本人による「次の Ruby」の誕生のために障壁になっているものは, たとえば同調圧力の高い社会であったり, 英語教育であったりと, いくつも考えられる。しかし, 本当の障壁は私たちの心の中にある「そんなことはできっこない」という思い込みではないか。しかし, 希望はある。インターネットの普及と SNS を始めとしたコミュニケーションインフラは, ソフトウェア開発の障壁を驚くほど小さくしてくれている。今, 必要なのは, 障壁を障壁とも思わない前向きな「若い」心を持つ個人と, またそれを温かく見守る周囲だと考える。

